

1. 件名：日本原子力学会、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との面談

2. 日時：令和4年12月13日（火） 13：15～14：30

3. 場所：原子力規制庁2階審議官室（Web会議にて実施）

4. 出席者：

原子力規制庁

長官官房

森下審議官

原子力規制部

核燃料施設等監視部門 熊谷統括監視指導官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 バックエンド統括本部 本部長代理 他2名

日本原子力学会「原子力アゴラ」調査専門委員会 大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科  
会 主査 他1名

5. 要旨：

○湧き出し核燃料物質や利用実態のない核燃料物質等を集約して管理する仕組みを構築する  
とした場合の課題等を共有するため、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原  
子力機構」という。）、日本原子力学会と意見交換を行った。

○原子力機構から、本年12月6日に開催された原子力委員会において「原子力利用に関する  
基本的考え方」（素案）が示されたとの紹介があった。

○日本原子力学会から、管理下でない放射性物質（いわゆる湧き出し核燃料物質）については、  
制度化されていないこともあり、これまで任意で使用施設の許可を得た大学において、許可  
の範囲で引き取りを行ってきたが、施設の老朽化、研究の終了等により、これ以上の引き取  
りが困難な状況にある旨の発言があった。

○規制庁からは、「原子力利用に関する基本的考え方」の策定の動向を注視しつつ、引き続き  
意見交換したい旨発言した。

6. 配布資料：

なし

以上